
幸せのパール

黒葉よつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せのパール

【Nコード】

N7187M

【作者名】

黒葉よつ

【あらすじ】

まあ、読んでみて下さい。

1 手紙

学校なんて、行きたくない……

来てほしくないのに来る朝。着たくもない制服を着て、だれもない机で朝食をとる。教科書の入ったバッグを手にとり、だれもない家に鍵をかける。そして、行きたくもない学校へ、足を運ばせる。

学校に着いて、下駄箱をのぞく。そこにあるはずの上靴がなかった。その代わりに、

「放課後、プールに来い」

と、書かれた紙が置いてあった。その紙を、何事もなかったのかのつよに、バッグに入れた。もう、下駄箱に上靴がなく、紙が置いてあるのが、普通になっていた。

教室のドアを開けると、

「雑巾爆弾はつしゃー！」

というかけ声と共に、汚い雑巾が、顔に飛んできた。その雑巾をかたづけ、席に座ると、隣の席の男子が、机を離れた。机には、

「菊池凜音様

ペットシヨップ モデラートに、来て下さい。」

と書かれた手紙がおいてあった。ご丁寧に地図まで、書かれてあった。イタズラだと思い、バッグにしまった。

学校が終わり、指定通り、プールに来た。けれども、だれもいなかった。帰ろうとした時、後ろから、突然押され、プールに落ちた。「!?!?」

顔をあげると、瑠璃がいた。瑠璃は、いじめグループのリーダー

だ。瑠璃の周りには、5人いた。瑠璃を含める6人が、それぞれデ
ッキブラシを持っていた。

「来てくれたのねえ。凜音さん。さあ、来たことを後悔しなさい！
！」

その言葉を合図に、水の中の凜音を叩き始めた。沈んで息ができ
ない。死ぬ寸前に、叩くのを止めたかと思うと、今度は、たわしや
雑巾を投げつけてきた。

「あははは！もっと苦しみなさい！」

勢いが増す。10分くらい経って、ようやく止まった。

「今日は、この位にしておいてあげるわ。」

そういつて、帰っていった。

バッグの中に、予備のタオルがあるので、バッグを取りに行った。
バッグを開けると、1枚の紙が、落ちてきた。それは、朝に机に置
いてあった紙だった。凜音は、その紙を手に、学校を出た。

2 ペットショップ モデラート

ここのお店、行ってみようかな・・・

いったん家に帰って、着替え、外に出た。

この地図によれば、モデラートは、公園近くの森の中にあるらしい。しかも、森の入り口に、モデラートまで案内してくれる人が、いるらしい。

森の入り口に着いた。人なんていなかった。騙されたと思い、帰ろうとした時、

「ナア。」

猫がいた。ちょこんと座っている。

「ナアナア。」

話しかけるように、鳴く。

「どうしたの？」

猫を抱いた。猫には、首輪が付いていた。首輪には、「モデラート」と、マジックで書かれていた。

「まさか・・・」

「ナア！」

猫は腕をすり抜け、森の中へと走っていった。凜音は追いかけた。

10分ぐらい走った。やっと猫が走るのを止めた。そこには1軒の家があった。すべて白く塗っており、屋根だけが赤だった。その家には「ペットショップ モデラート」と書いてある看板があった。凜音は、吸い込まれるように、モデラートに入ってしまった。

3 少女と白い犬

凜音は、吸い込まれるようにモデラートに入っていった。

中はすごい広かった。やっぱり白かった。正面の壁には、大きな鏡があった。その部屋の中には、カバやらキリンやらゴリラやら、沢山の動物が走り回っていた。鏡の前には、7歳ぐらいの少女が立っていた。

「店員さんって、何処にいる？」

と、その少女に聞いてみた。少女は、自分を指した。

「大人の人は？」

「私、1人でやってる。」

「じゃあ、この手紙、知ってる？」

少女は、手紙を持って、奥へ行ってしまった。しばらくして、帰ってきた。

「このコ。」

少女は、白いモノを凜音の手に乗せた。

「かわいい……」

白いモノは、犬だった。真っ白だった。パールのような、目をしていた。手のひらサイズだった。

「このコ、もらっていいの？」

少女はうなずいた。そして、なにかの紙をくれた。

「飼い方、書いてある。」

「そういえば、名前、聞いてなかったね。私は菊池凜音。貴方は？」

「メイ。」

「メイちゃん、ありがとう。」

そうやって、モデラートを出た。

注意

なんか、話がなかなか進まないの、もう他の話を書くことにします。

たまーーーーーに、新しく追加するかも知れません。

どこかで会えたなら、また今度。会えなかつたら、さようなら。

¥
¥
¥
¥
¥
¥
¥
¥
¥
¥ ¥

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7187m/>

幸せのパール

2010年10月21日13時23分発行